表－6.9.2(5)　改変区域内において確認された重要な種の分布及び生息状況に基づく変化の程度の検討(動物)　(その2)

++ :2～10個体未満　+++ :10～100個体未満　++++ :100個体以上

No.	分類群 区分	目	科	種	国外、国内、沖縄県内における分布状況(亜種については同一亜種の分布情報) 注1 国外	注2 国内	注3 沖縄県	石垣島内における生息状況 注4 石垣島内	注5 石垣島内での生息状況ランク	注6 現空港予定地関連調査 改変区域外の洞窟	改変区域内の洞窟	改変区域外での確認	航空障害灯予定地での確認	空港施設予定地での確認	合計	重要な種の分布及び生息状況の変化の程度	指定及び選定状況 法的規制 注7 天然記念物	注8 種の保存法	その他 注9 環境省	注10 沖縄県
9	昆虫類	ｺｳﾁｭｳ	ﾊﾝﾐｮｳ	ﾔｴﾔﾏｸﾋﾞﾅｶﾞﾊﾝﾐｮｳ	－	－	石、西、与	生息域は不明。 個体数は不明。	B			2	2		4	調査範囲における確認個体数は少なく、その半数が改変区域内での確認である。さらに、石垣島内における生息域及び個体数は不明であることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあるものと考えられる。			準	
10			ｹﾝｺﾞﾛｳ	ﾄﾋﾞｲﾛｹﾝｺﾞﾛｳ	中、台、印、比、東南 など	ﾄｶﾗ列(中之島)以南	沖、石、西	やや広範に生息するものと推定される。生息地は限定されるとされる。 個体数はやや少ないと推定される。場所によっては多産。	C			+++		++	+++	石垣島内のやや広範に生息し、個体数はやや少ないと推定されるが、調査範囲では改変区域外で多くの個体が確認され、改変区域内での確認はわずかであることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。				希少
11				ｺｶﾞﾀﾉｹﾝｺﾞﾛｳ	中・台・朝	本、四、九、小笠諸	沖、大諸、宮、石、西、与	やや局所的に生息するものと推定される。生息地が限定するとされる。かつて全国の平野部のみに広く分布していた。 個体数はやや少ないと推定される。県内各地で減少しているが、場所によっては比較的多い。	B			+++		+++	+++	調査範囲では数十個体が確認され、そのうちの半数以上は改変区域外での確認であるが、石垣島内においてはやや局所的に生息し、個体数はやや少ないと推定されること、また、絶滅が非常に危惧される種であることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあるものと考えられる。			I	希少
12			ｸﾜｶﾞﾀﾑｼ	ﾔｴﾔﾏﾉｺｷﾘｸﾜｶﾞﾀ	－	－	石、西	やや局所的に生息するものと推定される。 個体数は少ないとされる。減少傾向にある。	B			15	1	3	19	石垣島内においてはやや局所的に生息し、個体数は少ないと推定されるが、調査範囲では改変区域外で多くの個体が確認され、改変区域内での確認は少ないことから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。				希少
13			ﾐﾂｷﾞﾘｿﾞｳﾑｼ	ﾔｴﾔﾏﾐﾂｷﾞﾘｿﾞｳﾑｼ	－	－	石、西	生息域は不明。 個体数は極めて少ないと推定される。	A				1		1	石垣島内の生息域は不明で、個体数は極めて少ないと推定され、さらに、調査範囲では改変区域内で1個体が確認されたのみであることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあるものと考えられる。			I	
14		ﾊﾁ	ｱﾘ	ﾅｶﾞｵｵｽﾞｱﾘ	－	－	沖(北部)、石、西	局所的に生息するものと推定される。 個体数は不明。	B			1		1	2	調査範囲における確認個体数は少なく、その半数が改変区域内での確認である。さらに、石垣島内では局所的に生息すると推定され、個体数は不明であることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあるものと考えられる。				希少
15	甲殻類	ｴﾋﾞ	ｵｶﾔﾄﾞｶﾘ	ｵｶﾔﾄﾞｶﾘ	ｲﾝﾄﾞ西太平洋地域に広く分布	小笠諸	沖諸以南	広範に生息するものと推定される。成長に伴い内陸部に侵入・定着する。宮良川～轟川周辺では広範に生息確認されている。 個体数は普通と推定される。	B			88＞	1	128＞(うち死体1)	217＞(うち死体1)	石垣島内の広範に生息し、個体数は普通と推定されること、調査範囲においても多くの個体が確認されていることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。	国			
16				ﾑﾗｻｷｵｶﾔﾄﾞｶﾘ	－	九(鹿児島)～奄美諸、小笠諸	沖諸以南	広範に生息するものと推定される。宮良川～轟川周辺では生息環境となる海岸沿いに広範に生息確認されている。 個体数は普通と推定される。	B			493＞		1＞	494＞	石垣島内の広範に生息し、個体数は普通と推定され、調査範囲においても多数の個体が確認されており、その殆どが改変区域外での確認であり、改変区域内での確認はわずかであることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。	国			
17				ﾅｷｵｶﾔﾄﾞｶﾘ	ｲﾝﾄﾞ西太平洋地域に広く分布	本(南紀)、四(高知)、九(宮崎)、奄美諸、伊豆諸、小笠諸	沖諸以南	広範に生息するものと推定される。宮良川～轟川周辺では生息環境となる海岸沿いに広範に生息確認されている。 個体数は多いと推定される。	B			3,009＞		2＞	3,011＞	石垣島内の広範に生息し、個体数は普通と推定され、調査範囲においても多数の個体が確認されており、その殆どが改変区域外での確認であり、改変区域内での確認はわずかであることから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれはないものと考えられる。	国			